

第11回 CIEC サタデーカフェ

開催概要

開催日:2022年4月16日(土)20:00~21:00

会場:Zoomによるオンライン開催

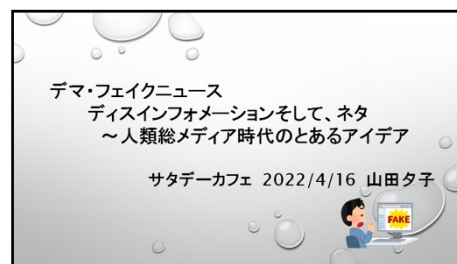
プログラム

20:00 - 20:15 【 話題提供 】

スピーカー:山田夕子氏 (社会医療法人愛仁会)

テーマ:「デマ・フェイクニュース・ディスインフォメーションそしてネタ」

20:15 - 21:00 【 参加者とのフリーディスカッション 】



第11回 CIEC サタデーカフェは「デマ・フェイクニュース・ディスインフォメーションそしてネタ」をテーマに社会医療法人愛仁会の山田夕子氏による話題提供でスタートしました。テーマにある「デマ」・「フェイクニュース」・「ディスインフォメーション」・「ネタ」の違いを理解されている方はどのくらいおられるでしょうか。今回はその説明から始まりました。山田氏によると、「デマ」は元は政治家や権力者が発信した偽情報をさし、今は雑な偽情報を意味することが多いとのこと。「フェイクニュース」は意図的に作り込まれた偽情報。「ディスインフォメーション」は偽報報を使う目的のことでサイバー攻撃の一種。「ネタ」は見破られることが前提となっている偽情報のことであると話されました。こういった偽情報を見破る方法はいろいろありますが、デマは正しい知識を持っていることで見破ることができることも多く、フェイクニュースは誰に対して、何のために、また流す側には何のメリットがあるのかということも考えることでも見破ることはできることが多いそうです。より確実に見破るためには、一次情報にあたることも大切ですが、それでも真偽を判断することは難しく、世の中には公式偽情報も存在します。確かさを求めるにはデジタル的に検証することも必要で、電子署名やハッシュ値を調べることも、また、偽サイトをドメイン名で調べる方法もあり、引用についてもそれを特定できる可能性があるそうです。カギになるのは情報リテラシーやニュースリテラシーを身につけることで、自分のリテラシーを過信しないことが重要です。必要なのは、真偽を問うための糸口にはどのようなものがあるかを考えること、と山田氏は締めくくられました。

話題提供のあと、参加者とのディスカッションを行いました。そもそも、デマ・フェイクニュース・ディスインフォメーションを意識して区別したことがないというところから始まり、実際は大きな違いは感じられないが、これらの違いをきちんと考えている発信者も多くいるということでした。また逆に何も考えずに情報を発信してしまうことで、周りの人たちに迷惑をかけることも紹介されました。そういったディスカッションから、話題は情報の真偽の見破り方に移りました。現在は、情報発信が容易になり発信者の数も増加したことから、真偽を見破ることもさらに難しくなっており、一次情報を見極める方法も有効だが、一次情報が正しいと言い切れない場合もあるとのこと。ウクライナのニュースのように、それが現実になったときのコストパフォーマンスを判断の参考にすることも有効であるという話題も出ました。情報の真偽を見極めることは困難ではありますが、1人1人が得た情報を、正しく納得した上で次に発信していくことが大切で、最後に山田氏が『「考える歯車になる』という考え方が大切です。』とおっしゃったことが印象的でした。

今回は8名の参加で少人数ではありましたが、改めて深く考えさせられる話題でした。CIEC では情報モラルや情報の真偽に見極め方などについてのお話を伺う機会は少なく、貴重なサタデーカフェとなりました。今回の話題提供者である山田氏を始め、ご参加頂いた方々にこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。(文責:平田義隆)

